

シルバーとよなか

ふれあい

1999年8月

社団法人 豊中市シルバー人材センター

No.29

総会ごあいさつ



理事長
宮崎 英二郎

平成十一年度社団法人豊中市シルバー人材センターの通常総会を開催いたしましたところ、ご来賓の皆様方には時節がら誠に多用中にもかかわらず、ご臨席いただき、心から御礼申し上げます。また、会員の皆様には、大変お



豊中市長
一色 貞輝

豊中市シルバー人材センターの平成十一年度通常総会が盛大に開催されましたことを、心からお慶び申し上げます。

平素皆様方には、市政の各般にわたりまして、格別のご支援・ご協力を賜わり、心から厚くお礼申し上げます。

忙しい中、このようにたくさんご参加くださいまして、誠にありがとうございました。誠にありがとうございます。

本年度の総会にあたり、一言、ご挨拶申し上げます。

今日、私達センターを取り巻く社会経済環境は、政府による景気回復への総合経済対策にもかかわらず、依然、回復の足取りは鈍く雇用情勢につきましても、企業等の雇用調整にともない中高年に対するリストラが進む等、非常に厳しい状況が続いています。

このような情勢下ではありますが、当センターの平成十年度事業実績を見ますと、会員数が一、五〇七人と前年度に比較して大幅な

ご承知のとおり、二十一世紀を目前に控え、我が国では、急速に少子・高齢化や国際化、情報化が進み、人々の価値観や生活様式が多様化等、社会経済状況が大きく変わろうとしています。

また、長引く不況のため、雇用不安や失業など、労働者を取り巻く環境は誠に厳しいものがあります。

このようななか、豊中市シルバー人材センターにおかれましては、高齢者の就業と生きがいづくりのため、様々な改善・改革を積み重ね、懸命にご努力をいただいております。着実な成果を上げて頂いております。

これもひとえに宮崎理事長さんをはじめ、役員の方々並びに会員

増加を見る一方、景気の状態等から落ち込みを心配してありました契約金額は三億九千三〇万円と微増とは言え、昨年度の実績を上まわることができました。

これも、市当局やご発注者の皆様をはじめ、会員各位の仕事への熱意ある取り組みの成果によるものと心から感謝いたしているところであります。

ところで、本年は国際高齢者年にあたります。国及び全国シルバー人材センター協会におきましても様々な取組みを行うと聞き及んでいます。

当センターにおきましても、これらの活動と連携し、さらなる事

の皆様方のためまご努力の賜と、深く敬意を表する次第であります。

今日、急速に進展する高齢化社会の中で、皆様方が豊かな経験と能力を生かされ、ともに助け合いながら活力ある地域社会づくりにご参加をいただき、高齢者の福祉増進に寄与されておりますことは誠に意義深いものであります。

豊中市も市政始まって以来の苦しい財政状況に直面しており、更には、六十五歳以上の高齢化率が十三％台に達するなど、行財政環境は大変厳しいものがあります。高齢者の皆さんの生きがいづくりをはじめ、福祉・医療の充実など、市民の健康と福祉の向上のために全力で取り組んで参りたいと存じます。

業の発展・拡充に向け創意と工夫をこらすとともに、昨年度から取り組んでおります、センター諸改革を本年度も引き続き積極的に推進し、運営面、就業面とも具体的な成果を皆様方にご提示できるよう努力する所存であります。

本日の総会には、平成十一年度の事業計画等、重要な議案を提出いたしておりますので、十分ご審議いただき実りある総会にしたいと思っております。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念致しまして、私の挨拶いたします。

また、本年は「すべての世代のための社会をめざして」をテーマとした国際高齢者年であります。

当市におきましても、各種事業の実施を通して、啓発に努めてまいりますとともに、自立、参加、ケア等国際高齢者年が目指します、安心して、いきいきと心豊かに暮らせる地域社会づくりに、精一杯の努力をして参る所存であります。皆様方には、引き続き格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、豊中市シルバー人材センターの今後益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。お祝いのご挨拶いたします。



豊中市議会議長
乗光 恭生

社団法人豊中市シルバー人材センターの平成十一年度通常総会が開催されるにあたり、市議会を代

平成十一年度 通常総会盛会裡に終る

表して一言お祝いのご挨拶を申し上げます。

皆様方には平素から、市政各般ならびに市議会活動に対し、何かとご支援、ご協力を賜り心から厚くお礼申し上げます。

本格的な長寿社会になるといわれております二十一世紀を目前に控え、私たちが健やかで、快適な充実した生活が送れる長寿社会を築くことは、地方自治体にとりましても極めて重要な課題でございます。

今年度の通常総会は、五月二十七日アコア文化ホールいっばいの会員の参加を得て盛会裡に開催。

第一部総会は、十八班金子勝蔵さんの司会で進み理事長挨拶のあと来賓を代表して、一色豊中市長の祝辞（議会開会中のため、藤沢市福祉保健部長代読）。市議会議長乗光のメッセージが司会者により読みあげられました。総会議長には、五班阪口充男さんが選ばれ、総会構成会員一、五六九名に対し出席会員が一、一三四名（うち委任状六八五名）で定款にもとづく総会成立を確認したあと、議事録署名人に、二班大森一男さん、十二班岡岸雄さんが指名され議事にはいりました。

第一号議案、平成十年度事業報告及び第二号議案の平成十年度収支決算報告については質問や意見も無く可決承認され、続いて第二

このようなか、シルバー人材センターでは、高齢者の雇用対策を通して社会参加と生きがいづくりに積極的な事業活動を展開され、福祉施策の推進にご協力いただいております。

ここに改めまして、皆様方のご活躍に対し、衷心より敬意を表し感謝を申し上げます。

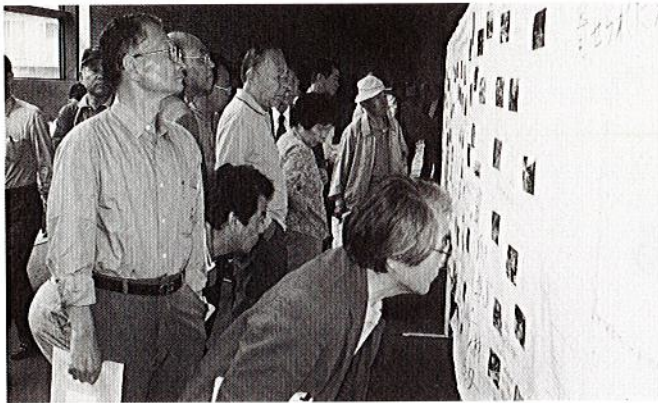
市議会といたしましても、市理事者と連携を図りながら、市民の皆様と協働し、安全で安心して暮らせる二十一世紀にはばたく豊

号議案の平成十一年度事業計画案、第四号議案平成十一年度収支予算案が提案説明され、あわせて四月からスタートした配分金支払日の変更についての報告が行われました。質疑になつて会場から、センターの厳しい運営状況を考えると会費を値上げすべきとの緊急動議が出され、意見を求められた理事會としては、会費改訂の動議が承認されれば具体的な検討を進めて行く旨の答弁があり、他に異議も無く会費の改訂は承認されました。議案については、意見等も無く可決承認されました。最後に、第五号議案の欠員役員の補充選任が諮られ、「理事監事選考委員会」野口高茂委員長から、出嶋慎一前理事の後任として藤沢弘明特別会員（市福祉保健部長）を理事に推薦する旨の提案がなされ異議無く承認され、全ての議案は終了し

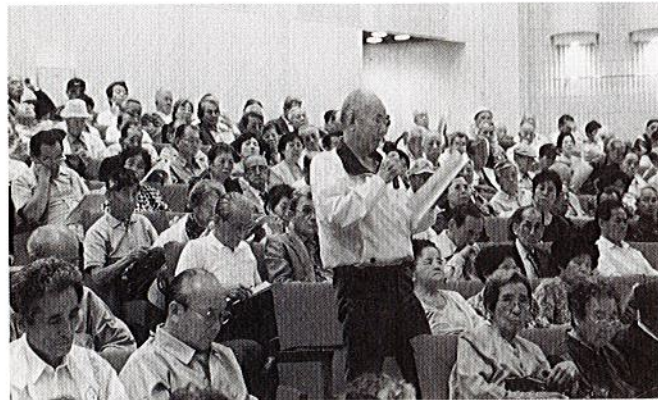


中」の実現をめざしまして一層努力してまいりたいと思っておりますので、よろしくご協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、社団法人豊中市シルバー人材センターのますますのご発展と、本日ご参会の皆様がたのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。お祝いのメッセージといたします。



ました。
休憩のあと、第二部のアトラク
ションでは、十班の山田千草さん
の司会で、豊中市の兄弟都市であ
る沖縄市との提携二十五周年にあ
わせ、琉球民謡をジャズ感覚で演
奏して売り出し中の、市内の大阪
音大グループ「ほっけ」の若いミ
ュージシャンによる歌とトークが
会場を湧せました。
本年度の総会では、運営、司会
進行、受付、会場案内等にボラン
ティアとして多くの会員の参画が
あり、ロビーでは、絵画、写真、
書道、手芸、編物等会員の力作が
並び、ハイキング、トッパル、
書道の同好会活動を紹介したコー
ナーやセンターの年間活動を写真



でつづった展示など、ロビーいつ
ぱいに会員があふれ、交流の輪が
広がりました。
センターは、いま改革の取り組
みを進めており、システムの變更
等で、とまどいもあるうかと思い
ますが、何よりも先ず会員の積極
的な参加と関心がセンターを良く
し強くなって行くことにつながりま
す。今年の総会では、予想だにし
なかつた突然の会費改訂について
の議案に理事会も事務局も、ひつ
くりするやら感動するやら会員の
熱い思いが響き連帯感を強く感じ
た場面でした。こうした会員の関
心の高まりに理事会も事務局も積
極的に応えて行かなければならな
いと心あらたにしています。

「安全就業委員会」
は訴える

安全就業委員会委員長
藤本哲夫

安全就業委員会は年間行事とし
て、春の交通安全講習会、安全就
業月間運動に関連して、年一回の
作業現場に対する安全パトロール
及び安全就業対策の検討反省会を
含む委員会活動を実施している。
また、駅前商店街における交通事
故防止キャンペーンにも参加して
市民の安全意識の高揚に努めてい
る。

春の交通安全講習会においては、
我々高齢者の重篤事故の中で、特
に多い交差点や横断歩道における
バイク、自転車、歩行者等に関す
る不注意事故について豊中警察署
係官から講演を拝聴した。

さて、新年度が始つてからの第
一・四半期を振り返つてみて、当
センターは無事故ではない。事故
報告書が提出されているものが四
月に二件、五月に三件、六月に三
件と毎月発生している。極めて遺
憾なことである。勿論これらの報
告書により、その原因、対策等を
検討するのであるが、事故の内容が
加害者と被害者の両者に分別さ
れる。自損事故(人身)被害者の

場合は、主に自分自身に痛みを伴
うので、自衛措置をとられるが、
加害者の立場になつた場合、各作
業現場の安全対策及び注意力が必
ずしも十分とは云えないように思
われる。この点に関して委員会を
含むすべての会員、職員が安全意
識の啓発とお互いの切磋に努める
必要がある。

人間社会においては危険は存在
するが、安全は存在しないという
諺がある如く、十分な配慮がなさ
れていても事故は発生する。しか
し、それらの事故を検討反省する
ことで我々の進歩につながる。

なかなか自覚しづらいことでは
あるが、シルバース代は若い年代



に較べればバランスなどいろいろな機能の低下が起るのは当然で、それ故なおさら安全就業のために使ったり近づいたりする機械や用具、作業場所や周囲の状況などの安全で正常な状態の確保が大切である。

「事務局だより」には毎月安全就業に関するPR、標語等が掲載されているが、更に安全確保の為に、遠慮や気兼ね、妥協のない真実一路の姿勢が必要と考える。今後とも委員会としては災害ゼロをめざして、事務局、会員の皆様のご指導とご協力を賜りながら前向きな雰囲気の中で歩みたいと思っております。よろしくお願いいたします。



賛助会コーナー

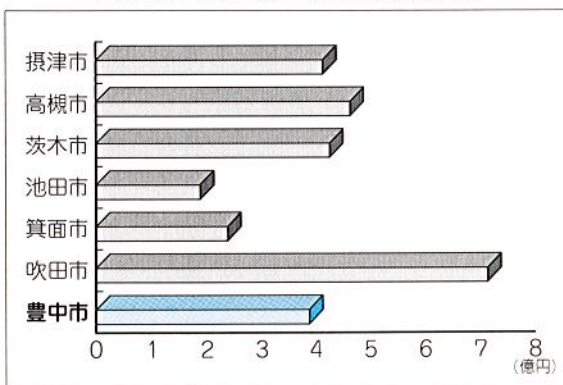
今年度から、賛助会制度がスタートしています。賛助会員については、センター発足時から定款で規定されていましたが、此度、センターの事業面、運営面で中広い支援、協力をいただく為、賛助会制度の発足を理事会で決定しました。

6月から、就業開拓にあわせ賛助会への協力要請を始めています。資料、パンフレットも用意しましたので、企業、団体、各種法人又は個人等で、ご支援いただける方をご紹介下さい。パンフレットの配布等についてもご協力下さい。

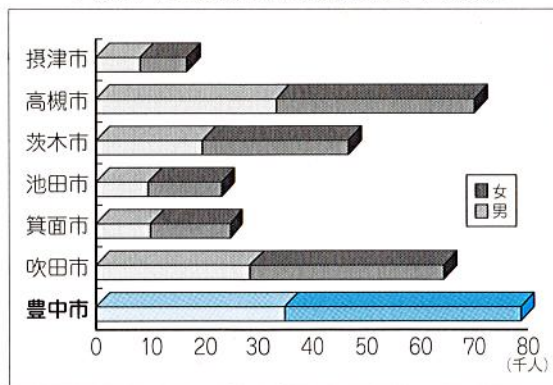
◆7月始め現在の賛助会お申込者

- 箕輪2丁目
仏光山・始来寺
(代表・平興隆)様
- 走井1丁目
正光山・浄行寺
(代表・楠原中住)様
- 庄内幸町5丁目
宗庄内神社
(代表・北島孝昭)様

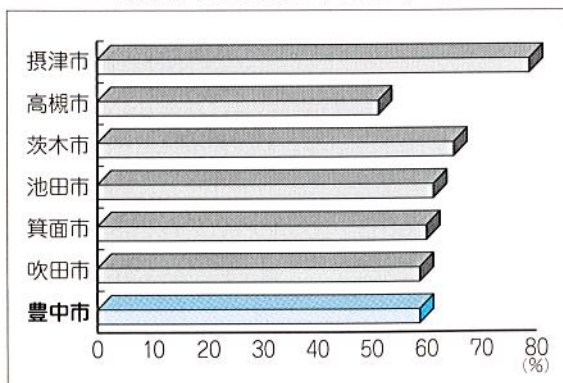
平成10年度北摂7市契約金額比較



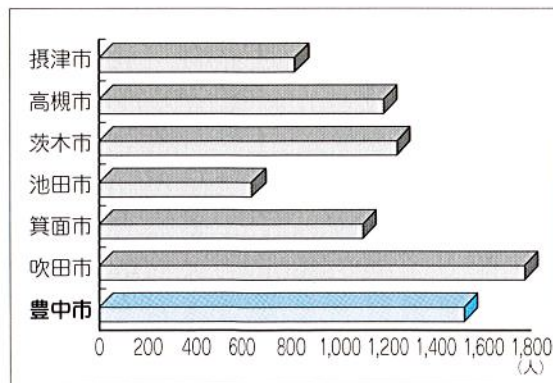
平成10年度北摂7市60歳以上人口比較



平成10年度北摂7市就業率比較



平成10年度北摂7市会員数比較



グラフで見るシルバーの現況



◎かかみがはら航空宇宙博物館
『かがみはら』と聞くだけで我々にとつては、陸軍飛行隊基地が思い出される。大正六年に開設されて以来、日本の現存する最古の飛行場として古い歴史をもっている。

次回より一泊と日帰りが交互という「うわさ」の中での出発に、ひととき心が躍ります。定員一杯のバス一台に分乗し、早朝より職員の方のお見送りに感謝しつつ、中国、名神から新しい東海北陸道を経て、二時間弱にて各務原に着きました。



楽しかったバスツアー (3月18日~19日)
飛驒路・古川町と
下呂温泉の旅

行 程	
●第1日(3.18・木) ●集合時刻7:50 ●場所:市役所	
◆豊中 8:00	豊中IC 中国・名神 9:30 多賀SA
東海北陸道 9:45	各務原IC 10:35 10:45 各務原航空宇宙博物館 11:55
12:25 12:25	昼食:美濃観光センター 13:20 美濃IC
東海北陸道 14:15	美濃加茂IC (41) 白川茶七宗御殿(休憩) 14:35
14:35	飛水峡(車中) 14:55
15:20	15:50 下呂温泉(水明館)
●第2日(3.19・金)	
◆下呂温泉 8:30	バス 飛驒石センター 9:55 高山市内
10:05	10:35 古川町
◆古川町 11:35	12:20 銀河高原ビール飛驒高山工場(昼食)
13:20	13:50 せらぎ渓谷(飛驒せらぎ街道)(郡上街道)
14:35	明宝ハム工場(見学・休憩) (472) 郡上八幡
15:20	15:40 関市SA 16:05 17:00 多賀SA
17:20	吹田IC 19:00 豊中

●バスを降りると、海上自衛隊機や各種の飛行機が目に入ってくる。
●館内に入ると、各務原飛行場で誕生した第一号機のサルムソンA-1型機が目にとまる。
●各務原にゆかりの飛行機を中心に展示され、わが国の航空機の移

り変わりがわかる。
●体験学習館では、ジェット機のスピードと迫力やアクロバット飛行を体感できるシミュレータがある。
●見学していると、飛行機の整備士として従軍していた人や陸士の航空教官としてアジア各地を転戦した人々の声が聞こえてくる。戦争に青春を燃やした思い出と共に青春の若さを取り戻したひとときであった。
——美濃観光センターにて昼食後、「飛水峡」を車中より、白川茶七宗御殿にて休憩、買物、中山七里の景勝を左右に眺めつつ、

三名泉の一つと賞讃されている。無色透明で美人の湯として人気がある。下呂温泉の中でも、飛び抜けて有名な「水明館」は、今回の旅のお目当の一つです。東海随一のクオリティ、スケールを誇る温泉リゾートホテル。部屋からは、飛驒川と温泉街が飛驒の山々をバツクに眺望され、温泉情緒に浸りました。温泉は、展望大浴場(飛泉閣九F)、野天風呂(山水閣一F)そして温泉大浴場「下留の湯」(臨川閣三F)三箇所をハシゴ。外に温泉プール、ガーデンプールと圧巻でした。従って、お料理も豪華にて宴会もカラオケ、くじ引きと楽しく賑やかに、下呂温泉の夜を満喫できました。



◎十六時前に下呂温泉に着く。
下呂温泉と水明館
西の有馬、東の草津と共に天下



ホームヘルパー養成講習
三級課程研修を終えて



第七班
長久 妙子

研修させて頂き色々勉強になりました。介護してもらった年なのに、と夫、息子に言われましたが、続いてその気持には尊敬するよ...と励まされて勇気が出ました。

最初は、時間に束縛され、つらくて何時まで続くのかと不安ばかりでした。でも周りの方々に支えられ今日を迎えることが出来、本当に有難うございました。

私事ですが、言葉に注意しないと一寸とした一言が相手をどれだけ傷つけているかと実感致しました。

平成四年父親が足の骨折で入院、七人の兄妹で交代に介護していた時のことです。寝たきりで日一日と衰えて手足も細くなり、毎日点滴ばかりでしたが、兄から私に交代した翌日より食事が摂れるようになって点滴もはずせて、三食でまだ足りず、プリン、アイスクリーム等をオイ

シイ...オイシイ...と嬉しそうに食べるので、つい私も嬉しくて、「よかつたね、こんなに食べられるようになったし、もう大丈夫。死ぬなんて言わず、早く元気になって家に帰ろうね」と言った途端「死ぬ、死ぬ言っただけで、大きな声で目をすえて怒鳴ったんです。いつも口ぐせのようにお前に迷惑かけるし、早く母のところにいきたい。死にたいと言っていたので、つい口に出てしまい、どうしよう」と、体の震えがとまりませんでした。そんな積りで言ったのではなかった。でも父にすれば一番悲しい言葉ですもの...。ちよつとした一言で相手がどれ程傷つくことが...。そのうち、食欲も徐々に落ち、摂らなくなり、三日後に眠るようになりなりました。今、思うと、父にはわかっていたのでしよう。後悔しても取返しが出来ず残念です。

研修させて頂いたお陰で相手の立場、謙虚な気持、やさしい心等を学びました。二十三日は実習も参加させて頂いてよい体験をさせて頂きました。

老人の方々も十人十色様々な人生を過ごされたのでしよう。色々話され、泣く人、笑う人、怒る人様々です。でも一声一声笑顔で最後まで聞いてあげ、応待されておられる職員の方々の態度に感動致しました。入浴、排泄、車椅子移動、大変な労働力です。これからは少しでも前向きに頑張りたいと思っております。男の方も参加されていましたが、この仕事は男の方が必要です。もっと多くの方が研修されることを望みます。本当に有難うございました。

総会は自主運営で



第十班
山田 千草

「すばらしい演奏と、軽妙なトークを交えての楽しいひとときを、ありがとうございました。」「ほっけ」の皆さんに、もう一度大きい拍手を...」「ライブが終了しました。私は不馴れな司会を仰せつかり、原稿に頼り放し。やつと、終了間きわで、アドリブのひとことが言えた程、緊張しました。手渡された原稿を自分のものでして、うまく皆様にお伝えすることが、どんなにむづかしいことか、と痛感いたしました。

五月二十七日、シルバースターの総会が、行なわれました。そのあとのアトラクションに、豊中市と沖繩市の兄弟都市二十五周年記念に沖繩音楽に関心の深いバンド「ほっけ」の演奏会が催されました。バンドリーダーの解説により、沖繩の民族音楽がくもく出するあの独特の旋律が、基本音階のドレミファから「レ」と「ラ」を除いて作曲されているところから来ている、と知り、その物悲しさを生み出した沖繩の先人の感性に、思いをはせていました。

舞台と観客が一体となって湧き上るパワー。あの強烈なドラムの響きが、聴き手に大いなる感動を覚えさせてくれました。

パワー、と言えば、今年の総会から、会員の自主運営にゆだねられ、受付・案内・場内整理・司会等、会員が担当しました。特筆すべきは、ホール口ビールの会員による同好会の展示作品。長年、修練を積まれた条幅の書。年令を感じさせない力強い絵画。撮影方法を思わずお伺いしたくなる幻想的な写真など。何れも力作揃いで、熟年パワー、ここにあり。の感、ひとしおでした。

総会は、えてして御座成りのものになり勝ちですが、プラスチック志向も含めて、出席者のアンケートにもありましたように、会員たちとの交流に、重点をおかれて運営して頂ければ、もっと有意義な、楽しいものになるのではないかと、この思いを深く致しました。

就業機会開拓専門員
としての活動を終えて!



第八班
吉牟田 利昭

私を含め三人にて、本年一月四日より三月三十一日の丸三ヶ月の間、就業開拓専門員として就業開拓活動に携ってまいりました。

周知の通り、バブル崩壊を機に雇用情勢は一層悪化し、特に我々中高年者に対しては尚一段と厳しい状況下にあり、而して、活動中に私なりに感じた事を記してみたいと思います。

活動期間中には数多くの企業を訪問し、経営者や人事労務担当、他の方々に接してきましたが、殆んどの皆様は異口同音に「そのうちに儲かったらお願いさして頂きます」という返事であった。

この不況の世の中、企業側も、企業防衛に必死であることは当然であります。以前、ひところ、よく耳にした「大きい事はいう事だ」の風潮に煽られ、必要以上に贅肉を付けた挙句の果てが今回のバブル崩壊。そして崩壊以降はリストラを行つている企業が殆んどである。このように人員の削減、経費の節減等々を行つている真つ只中へ我々シルバーの会員を使って欲しいと頼み込んで返ってくる言葉は明々白々である。それでも世は不況とはいつても、どこかでは我々シルバーの会員を必要としている企業や家庭があると一縷の望みを持つて励んでまいりました。訪問先の中には、年輩者の豊富な仕事上の経験、技術、知識、生活体験等を重宝がられる先も多々ある様に感じられるが、如何せん不況の壁が立塞がっており思いの儘にならず。また最近の若者には余り見受けられない気配りや丁寧さをシルバーの会員さんは有していると過去を述懐していられる方々もあり、今後に大いに明るい希望と期待を感じています。しかし、その反面では厳しい見方をしておられる経営者もあり、各々会員の皆様が真剣になつて会社に役立つ仕事をしてくれるのかと一時的な小遣い稼ぎや、時間潰しの様な気軽な気持を持ち合わせてはいないだろうかという様な声も耳にしました。

労働に対して対価を支拂う側からすれば極く当然な事だとも思われる。社会に対し「年寄りだから」と甘えの気持ちは許されぬ。発注者の方々は、我々会員の仕事の成果に関して常にシビアなチェックを行い、結果次第によつては今後の発注が断ち切られかねないし、逆に良ければ継続的な発注をも得る事も望めます。要は、良い結果を残せば後々までの道が開ける事が期待出来、それが強いては就業の拡大にも繋がります。その為には、事務局だより、等で常に強調されている様に少しでも多くの発注者のご要望にこたえられる様に、会員各位が職能訓練による技能向上等自己啓発に努める必要が生じて来る。

ご存知の通り、国としても雇用対策を最重点課題の一つとして、「七十万人を上回る雇用機会の創出に力を注ぐ」を掲げている。その一環として、企業等が、中高年の非自発的失業者を積極的に雇用する場合等に奨励金を支給する施策を導入する等、中高年令層にも少しは明るい見通しも窺われる。今回の開拓活動の効果は直ちに就業に直結するとは到底思われませんが、何れ、将来においては例え僅少にても開拓するものと期待致します。経済の高度成長期頃やバブル時代の様な状況までは望めなくも、我々会員皆が、安心して生き甲斐ある毎日を過せる日が一日でも早く到来する事を期待します。

その為にも会員皆が一丸となつて精進し、少しでも豊かな生活を築かなければならないと思ひます。

最後に、この就業開拓活動を通じて、数多くの方々に出会い出来、様々な貴重な御意見や人生訓等を拝聴出来、人との出会いの大切さも知りました。その他健康管理にも大いに役立ち、仕事仲間にも恵まれ、楽しく有意義に終える事も出来ました。この様な機会を与えて頂き深く感謝致します。



第十二班
岡本 宗五男

シルバーパワー(老人力)を 大いに役立てよう

— ボランティア活動のすゝめ —

この度の総会では、会場の設営や準備段階から、当日の場内案内と受付などに大勢の会員の方々がボランティアで協力され、大盛況の裡に終了しました。

豊中の市民の方々にシルバーパワーを知ってもらうには、このボランティア活動が有効なのではないかと思つている一人です。

何か社会に還元する形で労働の対価を求めるのが本来の姿ではないのでしょうか。ボランティアで「シルバー人材センター」の人達が「○○○しています」となればPRもして頂けるのではないのでしょうか。その中から自ら自立自助の精神に則つて独自事業や自主事業が生まれてくるように思ひます。

どんなボランティア活動が考えられるのだろうか。特定の機会をとらえて「公共的広場や公園などの清掃

を引き受ける」とか。例えば、毎年夏に催される「豊中まつり」の会場で何かの作業を引き受けるというのは如何でしょうか。「とよなかCATV」や新聞でも取り上げてくれるのではないかと思ひます。そうすれば、今後の「シルバー」の就業開拓にも好影響を与えるのではと。

アンケートの中に「放置自転車のリサイクル」を提案されているのを拝見しました。これなどは、とても良いアイデアだと思います。放置自転車の行方をよく調査せねばならないと思ひますが、「消費者センター」とも連絡をとつて、同センターが計画されるバザーなどに市民のリサイクル運動を助ける精神で出店販売させて頂くなど協力していきたいものです。是非、自転車の分解、組み立て、整備などに興味があり、力をかけてやろうと思われる方をグループ化したいものです。

これが第一歩です。次いで、大型「ゴミ」として放出される家具調度類の修理、整備を手掛けてはいかがでしょうか。

大型の「ゴミ」として放置される家具調度類は皆がみな業者が引取つて行つてくれるのではなく、ソファアームやタンスでもメリメリとクラッシュされて回収車によつて運ばれていきます。私達の世代の者には見るに堪えられない光景です。

このように、私達がこれまで培つて来た知識や技能を活用すればいろいろな事ができるのではないのでしょうか。このほかに一杯あります。この度のみなさんのアンケートの声に励まされ、この一文を書いています。

同好会だより

ハイキング同好会

宇治から天ヶ瀬ダム

ハイキング

第十三班 山路 政市

目に青葉の季節がやって来ました。五月の例会は宇治から天ヶ瀬ダムコースをとりました。五月八日、土曜日、参加者三十八名、新しく参加された二名があられ、出発前に単独行動はしない様、安全に心がけることをお願いした。

京阪電車京橋駅から九時十一分の急行に乗り、中書島で乗替え、宇治駅に着いたのは十時十五分頃であった。この駅は平成七年夏完成した新しい駅である。新茶の香が街にたぐよいお茶と茶だんごの店が軒を並べていた。

先づ国宝、宇治上神社は、宇治神社と関係が深く、かつては上社と下社の関係だったが明治時代に別れて上社が宇治上神社になり、下社が宇治神社となった。本殿と拝殿が国宝で、なんでも拝殿の屋根裏にかえるが居ると説明があり、もつと詳しく聞いておけばよかったです。大吉山公園はなだらかな登りになっており山つつじと山吹が満開である。山頂には宇治市内を見下ろす展望台がある。お天気が良かったのではつきりと見晴

らすことが出来た。十五分程で興聖寺の山門に着く。美しい堂塔が

聳えている。曹洞宗の寺で桜とかえでにおおわれた参道の琴坂を下ると、桜、つつじ、山吹が咲き誇っている。宇治銘木の一つモミの大樹がある。宇治駅から三十分で天ヶ瀬ダム入口に着く。ダム湖を造る堰堤は十階建のビルより高いのではと思えるほど雄大である。ダムの上の鳳凰湖は満々と美しい水を貯わえていた。木陰を見つけて昼食にする。子供のように、わいわい騒ぎながら楽しく食事が出来る。帰りのコースは天ヶ瀬吊橋を渡り、逆コースをとり宇治



駅へ。途中に朝霧橋を渡った憩の場所と解散する。右は宇治橋へ、左は平等院へ何人かが行つておられた。

今回のハイキングは絶好の季節に恵まれ楽しく無事に一日を過ごしたことは有意義であった。

Tシルバートラベル同好会

創立三周年を迎えて

第一班 山田 英明

シルバー人材センター主催の旅行は大変人気があつて、多数の会員さんが申込みをされるため、いつも定員オーバーになつて居る。事務局も全会員さんに公平に参加していただくため、参加希望者の抽選をして人数を限定している。

抽選に洩れた方の中にはキャンセル待ちをしてでも旅行に参加したいという方が大型バス一台分位おられると聞き、それだけ旅行に関心を持つて居る方がいるのなら同好会を作つて皆さんの旅行をお世話したらと言つたことになつた。平成八年五月発起人会を開き、二ヶ月の準備期間を経て平成八年七月一日に会名をTシルバートラベル会と命名し、会員数三十五名で発足。この七月一日満三周年を迎えることが出来ました。現在会員数は男二十八名女二十四名の計七十二名の方が旅行を楽しんでおられ

ます。当会は原則として年二回の旅行をしております。それは、宿泊旅行一回、日帰り旅行一回です。他に誕生会を年三回行つており、一回でも多く会員相互のコミュニケーションを圖つております。では、どの位の費用がかかるのかということになりませんが、当シルバートラベル会はどこからも助成金が出ません。すべて自前ですので、先づ年会費が一、五〇〇円、誕生会が赤飯、ケーキ、ビール、ジュース、おつまみ等の出し物で一、三〇〇円。日帰り旅行は一万円前後。一泊旅行は三万円強です。乗物は大型トラックサロンカーでゆつたりとした気分で、車内はピールの飲み放題で、カラオケあり、童謡唱歌の大合唱ありで、毎回楽しいツアーになります。この三年間に日帰り旅行は、天の橋立、明石大橋と淡路島、彦根城の桜と木曾三川のチューリップの三箇所。一泊旅行は白浜、小豆島、安芸の宮島と広島島の三箇所です。各旅行は会費よりもそれ以上に中身の濃い旅行をしてあります。

人材センターは今年より旅行を年一回に削減されました。これもやむを得ぬ社会情勢の結果でしょう。当トラベル会に入会ご希望者はどんどん入会して下さい。お待ち致しております。

さわやかな緑の風も嬉しくて
トラベル会のバスはゆ〜

あじさいの花重だけに見ゆるかな
梅雨の晴れ間の木がくれの里

書道同好会

第五班 平田 彰

私は二年前にセンターに入会と同時に書道同好会に入れていただきました。筆を持ったのは小学校以来で文字どおり六十の手習いでした。その後、先輩諸兄のあたたかいご指導をいただいて今日に至りました。

「巻紙に筆でさらさらと書きたい」との目標はまだかないませんが、お陰さまで年賀状などは筆で書けるようになりました。

会員は二十二名で男女半々。私のような初心者から文部省書写検定一級合格者や書道教室の先生までいろいろな人がいます。書道への思いは各人各様ですが毎月二回集って楽しく習字をしています。入会ご希望の方はご連絡ください。

為すべき事は必ず即日これを為せ

宇佐見 功

第二班 宇佐美 功

白雲天
紅葉地

鶴飼 俊

第三班 鶴飼 俊

秋高佳
風月

鷲崎 俊一郎

第三班 鷲崎 俊一郎

憲法園
会代表

光代 真嶋

第七班 真嶋 光代

なつ、うらもなつた川
原のやま、かけす、
うにさう、なす、
うらな

静枝 岡野

第十四班 岡野 静枝

囲碁同好会

第十二班 國本 種一

センター会員の皆様、遅まきながら暑中お見舞を申しあげます。平成四年に僅か数名で発足した當会ですが、七年経つた現在二十名の会となりました。

毎週金曜日の午後センター会議室において例会を行っています。



「大暑」直後の七月二十日(金)午前九時半より十八名の棋友あい集い第四回囲碁大会を開催しました。

炎暑のなか、程よくクーラーのきいた部屋で、各位四局の熱戦をくりひろげ、岡村さんが優勝、山口さんの準優勝で無事大会を終えました。

次回は来年一月に第五回大会を行う予定です。

編集のしおり

緊縮財政により、表紙のカラーは取止め、黒一色の予定でしたが、水色は残して頂きました。

本誌編集の特色は、四段組の間隔が広いのと、上段の余白が広くとつてのことです。他紙では、余り見られないレイアウトです。

これは、元編集委員の「中春雄」さんが考えてくださったものです。自宅にて編集中心、心不全にて急逝されました。この七月で二年目になります。見出しの水色も同氏のアイディアです。

会員のひろばは、業務関係が多く、ちよつと堅苦しい感じですが、双号・正月号には、自由文を掲載させて頂きます。ご了承下さい。

表紙の写真は、会員の藤田泰通さんに、似顔絵は、会員の山階康雄さんが描いてくださいました。正月号の表紙は、カラーの予定です。

残暑酷しき折、皆様のご健康を切に祈っております。

(編集委員長 野口)

想いのたけをふみに託して…

短 歌

第一班 中山 和久

初恋の女の訃報にゆらめきぬ
濃き面影も遠し想ひ出

可憐なる花房垂るる馬酔木にて
毒含みても吾は愛しき

白骨の大台ヶ原の枯木見よ

この酸性雨総てを絶やすか

古希を経て今尚惻れず吾が心

淡き憧れ抱きつ、生く

三十五度下る事なき吾が職場

苦を修行として神道を楽しむ

俳 句

第二班 須藤 操

奥飛驒は哀史抱きて斑雲

閑寂の林にひそと紅たてる

春宴にひとときの肅古城聴く

春寒や五臓を揺する獅子太鼓

この街の雨水に飛驒の地酒買ふ

第四班 村井實代子

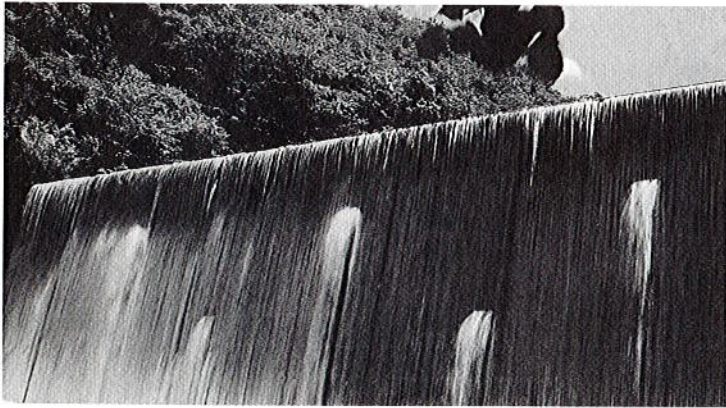
山路をあえいで登り水落ちる

梅雨上りかけろう燃える傘の花

梅雨上り蟬の泣声土用丑

枝豆に息子が集いてビール干す

浴衣着てくり出す孫の早や乙女



和裁会員の皆さん、こんにちわ!! 第四班 徳永美恵子

「ふれあい帽子」のコーナーも、回を重ねて三回、初回が庄内公民館、二回目は千里中央センターで、どちらも老人福祉センターで取材をさせて頂いた。今日は趣を変え事務局の会議室に、和裁会員の皆さんをお訪ねした。現在二十一名の会員さんと、平均七人の会員さんがおられる。

早速お客様がお越しだ。ご相談は東京にいる初孫さんに浴衣をプレゼントしたいのでお願いします。とのこと。す。テーブルの上に広げられた子供用の浴衣地には、紺色地に白の染め抜きでトンボの絵がとても可愛い。次のお客様は、仕立直しのご相談らしい。お相田様の単衣物を、柄が好きなき着物なのご迷惑ですがとのことでした。会員のCさんは、解き洗いで仕立直したから、布地の力がねえ、どうで



私は“ふれあい”帽子

しようと、迷いのご様子。流石にプロのアドバイザーは適確である。納得の上、申込んでお帰りになりました。

今度のお客様もご心配で、ご相談は、羽織を何かにリフオーム出来ないかとのご希望。手許の風呂敷の中から、目も覚めるようなボタン色で、手毬が飛び模様になって美しい。

豪華な色彩が見事で、見とれた私にお客様はしみお話をされた。この羽織は、亡き母が、私の十九歳の歳に初めて縫って呉れました。当時は戦争中のごことです。一度も手を通さない儘でした。

友禅模様のコタツ布団 素敵!!

最後のお客様は反物でお仕立て。工ンジ色の布地に、溢れるばかりの花が一抔の大胆なタツチだ。

思わず息をのむ。お客様がお帰りのあとで、私が、これも浴衣かしらと、眩いたら、会員のDさんが、この反物今流行の有名なデザイナーさんが描きはったブランドもんでしようね。浴衣の柄も随分変わって、やっぱり時代ね。ここにも和裁の今昔物語。感無量。

一寸、会員の皆さんをご紹介させて頂きます。年上のお方が八十四才、年下のお方が六十四才、平均年齢が七十四才。和裁のご経験は、うん十年の達人、しかもお針一筋で立派なお仕事です。私の言葉に会員のEさんは、もうボツボツ鉢の方も、目の力も、一年毎にしんどうなって、次に仕事が出来人準備しとかな、とお言葉。少し淋しい。Eさんは、でも皆さんは、仕事大好きで百才迄大丈夫。まだまだ続けまっせの明るい声には、一同涙が出る程、大笑いした。

次に、Gさんは、お針一筋に四人の子育てを見事にやり遂げた若若しいお方。ご主人様を亡くし途方に暮れた末、自分に負けずに、お針を続けたHさん。生き生きとお話される。呉服屋さんの仕事に厳しくて何度も止めようとして弱気になりかけたが、辛抱のお蔭でこの歳までお金が頂けて有難いことです。人生を知りつくしたお嬢のGさん。他の皆さんも、そんな、こんなで、戦後苦しい時代を乗り越えて、一針一針の地味なお仕事。和裁の今昔物語。

最後に会員の皆さんからの伝言。和裁のお仕事、申込みよろしくお願致します。頑張りますよ。

私もお蔭様で、最高の取材が出来て嬉しくなりました。